

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	JR春日井駅南東地区第一種市街地		階数	地上5階
建設地	愛知県春日井市上条町三丁目244番		構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	170 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	事務所・学校・物販店・病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年8月	予定	評価の実施日	2019年1月31日
敷地面積	3,899 m ²		作成者	長橋 真弓
建築面積	466 m ²		確認日	2019年1月31日
延床面積	2,249 m ²		確認者	長橋 真弓



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	85%
③上記+②以外の	92	85%
④上記+	138	85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.1
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.6
耐用性	3.0
対応性	3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.5

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.6
地域環境	3.1
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.6

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	40.3 %
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3.1

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.3	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.2	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.7	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														5.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														0.50	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														0.26	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														0.20	
3 光・視環境														3.0	
3.1 昼光利用														3.1	
1 昼光率														0.25	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														0.34	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														0.48	
3.3 照度														-	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														3.0	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														0.25	
4.2 換気														5.0	
1 換気量														0.50	
2 自然換気性能														1.00	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														0.30	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														0.41	
Q2 サービス性能														3.3	
1 機能性														3.6	
1.1 機能性・使いやすさ														4.5	
1 広さ・収納性														0.40	
2 高度情報通信設備対応														4.6	
3 バリアフリー計画														4.0	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観(天井高)														0.11	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														0.11	
1.3 維持管理														5.0	
1 維持管理に配慮した設計														0.78	
2 維持管理用機能の確保														3.8	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.30	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.31	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														0.48	
1 躯体材料の耐用年数														0.80	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														0.20	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.1	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														0.33	
6 主要設備機器の更新必要間隔														-	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														0.19	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														0.20	
4 機械・配管支持方法														2.0	
5 通信・情報設備														4.0	

3 対応性・更新性				3.3	0.29	3.5	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	4.0	4.0	0.50	
1 階高のゆとり			階高3.7m以上確保	4.0	0.60		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1以上確保	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	3.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	緑化指数20%以上確保	3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	境界際を積極的に緑化	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		4.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BIP,BIPm=0.8以下	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	0.30			-	3.0
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型器具の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	パーテュクルボード、ビニル系床材	4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつGWPが低い発泡剤を使用	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	CO2排出量が一般的な建物と同等	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の自転車置場の確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

JR春日井駅南東地区第一種市街地再開発事業(商業棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:40.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>新しい駅前のランドマークとして潤いと落ち着きと温かみを創る</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>快適な空間となるよう配慮</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>高効率設備機器の採用</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>境界際を積極的に緑化。近隣・街並みにも配慮</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省エネを考慮した設備機器を設置し、一次エネルギー消費量を抑えるよう配慮</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>便器に省水型機器を採用</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>荷捌き用車両の駐車施設を確保</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>